



**国際北極科学委員会**

**International Arctic Science  
Committee (IASC)**

**概要**

**2021年10月  
日本学術会議**

# IASCの設立の経緯と目的

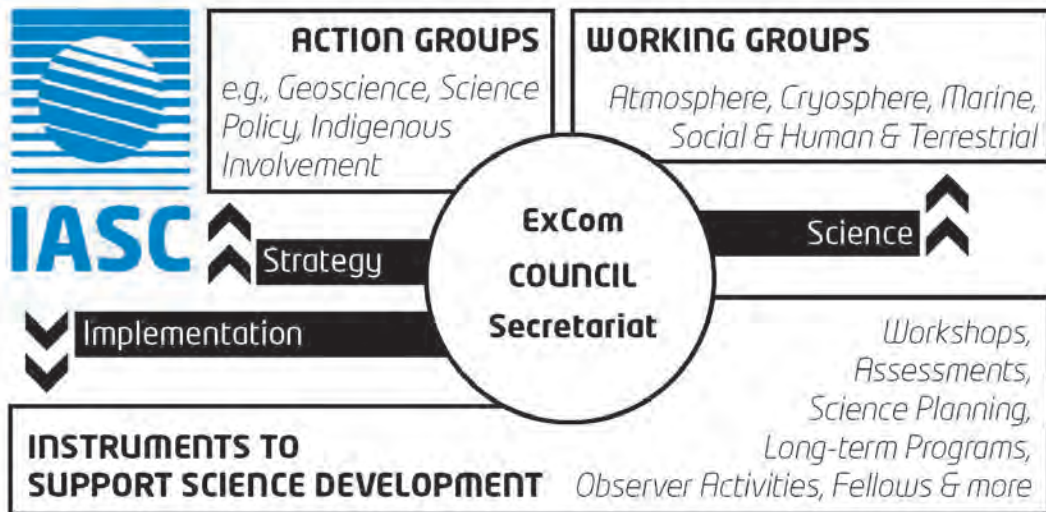


- ❑ 1990年設立。北極圏に領土を持つ8カ国により設立が呼びかけられた。そして、北極圏外の国の参加を得て14か国により1991年に最初の公式会合が開かれた。日本もこの会合から参加している。
- ❑ 北極域に領土を持つ地域と北極研究に従事している国々により、北極域および全球的な科学研究の強力な研究推進体制を目的とした組織。
- ❑ 各国からの分担金によって活動しており、科学的なアドバイスや科学の進展に対して援助も行なっている。また、自然科学だけでなく北極研究に関するすべての分野を網羅している。

## IASCの活動指針

- 北極圏と地球システムにおける役割について、より深い科学的理解を促進するために最先端の学際的研究を推進する。
- 人間と環境の境界を埋める活動を行う。
- 伝統的知識、先住民の知識、および科学的知識は、同等で補完的な知識システムであると捉え、これらすべてから情報を得る。

# 国際北極科学委員会 (IASC) の活動

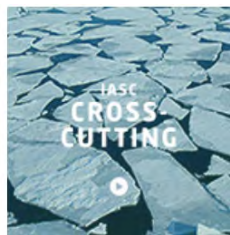
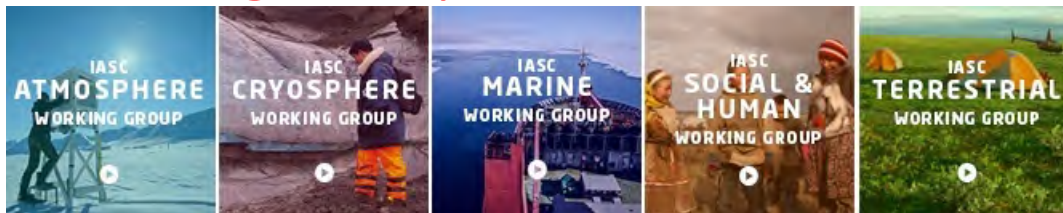


## IASC の活動体制

ExComm、事務局、  
評議会：参加国23 (北極圏8, 北極圏外15)

Action Group, Working Group  
総会：毎年開催、北極観測サミット (AOS)と科学シンポジウム隔年開催。  
長期計画検討活動(ICARP)を10年に一度実施。

## Working Group (WG)



大気、雪氷、海洋、自分社会、  
陸域のワーキンググループおよび  
クロスカッティングの活動

## Action Group (AG)

- ✓ 2020 - present: Carbon Footprint AG
- ✓ 2017-20: AG on Indigenous Involvement
- ✓ 2018-20: Bylaws AG
- ✓ 2017-19: Arctic Science and Business/Industry Cooperation
- ✓ 2017-18: Communicating Arctic Science to Policymakers
- ✓ 2012-13: AG on Geosciences
- ✓ 2012-13: Data Policy AG
- ✓ 2008-12: SCAR/IASC Bipolar AG

# 日本の科学者によるIARCへの貢献



- 緊急課題** 北極の自然科学と人文社会科学の課題を議論。科学が持続可能な北極を実現する。（科学主導）
- 科学活動** 北極圏外の国の活動として日本を含む中緯度、グローバル影響の研究。高精度、長期の観測や調査の実施（信頼性）
- 国際協力** 観測基地、研究船、衛星による観測活動を通じた国際モニタリングネットワーク。国際的なデータ共有への参画。国際会議の開催。

学術会議を通じたIASCへの貢献。日本のIASC加盟から30年、ASSW/IASCへの日本の長年の協力は、国際的な北極研究推進の主要メンバーとして海外の研究コミュニティからの信頼を受けている。

2015年富山にてASSW開催(日本学術会議共同主催) (IASC25周年、ICARP III、科学シンポジウム同時開催)。



TOYAMA CONFERENCE STATEMENT  
ASSW2015共同声明

「北極圏研究の統合—未来へのロードマップ」



**Arctic Research Priorities for the Next Decade**

ICARP III  
3rd International Conference on Arctic Research Planning  
ICARP III

Integrating Arctic Research - a Roadmap for the Future

- グローバルシステムにおける北極の役割
- 将来の気候ダイナミクスの予測と生態系の応答
- 北極の環境と社会の脆弱性とレジリエンスの理解および持続可能な開発の支援

IASSA, IASC, CLIC, NySMAC, APECS, Arctic Council, CAFF, IASC, AICS, ICES, CIEM, IARC

## 北極研究計画 ロードマップ (ICARP III)

IASCは北極圏研究計画に関する国際会議（ICARP）を開催し、10年ごとに将来計画の提案を行っている。ICARP IIIでは「北極圏研究の統合—未来へのロードマップ」をまとめた。



### IASC 2020年

**北極科学の現状レポート**  
ICARP IIIで策定した優先課題の実現に向けて

### 北極研究の緊急課題を確認

- 北極の気候結合システムの理解する。
- 様々な汚染に関して起源と集積の状況を把握し環境や社会への影響を明らかにする。
- 北極での観測・予報・予測および予測可能性
- 社会要請に応える北極研究を推進

**北極科学大臣会合(ASM) 推進協力** 第1回(2016)ワシントンDC, 第2回(2018)ベルリン, 第3回(2021)東京。北極科学の国際協力の現状報告と今後の行うべき国際協力活動を提案